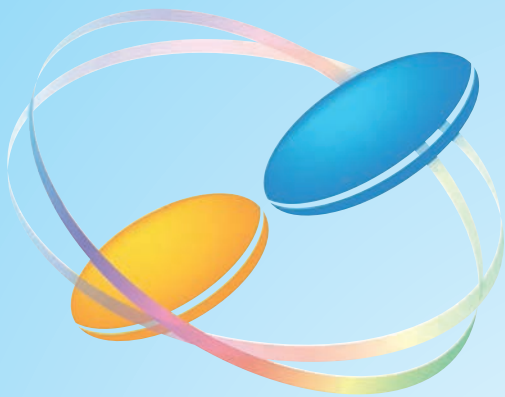




埼玉医科大学国際医療センター 地域医療連携 News



基本理念：患者中心主義のもと安心して安全な満足度の高い医療の提供を行い、かつ最も高度の医療水準を維持するよう努めます。

使 命：当センターは、埼玉県全域を範囲とし、がん、心臓病に対する高度専門特殊医療に特化し、かつ高度の救命救急医療を提供します。

基本方針：上記の理念に従って患者中心主義（patient-centered）を貫き、あらゆる面で“患者さんにとって便利”であることを主眼とし、患者さんひとりひとりにとって最も適切な医療を提供致します。

患者さんの権利：当センターは、全ての患者さんには、以下の権利があるものと考えます。これらを尊重した医療を行うことをめざします。

- (1) ひとりひとりが大切にされる権利 (2) 安心して質の高い医療を受ける権利 (3) ご自身の希望を述べる権利
(4) 納得できるまで説明を聞く権利 (5) 医療内容をご自身で決める権利 (6) プライバシーが守られる権利

小児患者さんの権利：(1) ひとりの人間として尊重される権利

(2) 質の高いおもいやりのある安心安全な医療を受ける権利

(3) 年齢や理解度に応じた十分な説明と情報提供を受ける権利

*子どもさんとご家族が、わかりやすい言葉や方法で、納得できるまで説明を受ける権利

(4) ご自身で希望を述べる権利

*子どもさんとご家族が、ご自身の精神的、文化的、社会的、倫理的な問題について要望する権利

(5) 自己決定の権利

*子どもさんとご家族が、自らの意思に基づいて医療内容を選択あるいは拒否する権利

(6) プライバシーを守られる権利

新任包括的がんセンター長ご挨拶

包括的がんセンター長 濱口 哲弥



2023年4月1日
付けで埼玉医科大学国際医療センター・包括
的がんセンター長を拝
命しました。どうぞよ
ろしくお願い申し上げ
ます。私は2017年7
月に埼玉医科大学国際

医療センターに赴任し、腫瘍内科医としてがん
薬物療法に携わってまいりました。これまで多
くの患者さんをご紹介頂いている地域の先生に
は厚く御礼申し上げます。

さて、当院では2022年に国際医療セン
ターF棟（化学放射線治療棟）が稼働し、集学
的治療に力を入れているところです。従来の外
科的治療や内視鏡治療に加え、放射線治療、
がん薬物療法を集学的に行い、治療の向上を目指
しております。F棟（化学療法治療棟）では1
階は放射線治療室、2階は包括的がんセンター
F棟外来・外来化学療法室、3階は中央検査部、
4階は化学療法と放射線治療を対象とした病室
となっています。放射線治療棟には、一般的な
放射線治療から強度変調放射線治療（Intensity-
Modulated Radiation Therapy: IMRT）や体幹部
定位放射線治療（Stereotactic Body Radiation
Therapy）まで幅広く対応できる汎用リニアック
が2台、転移性脳腫瘍、肺癌、肝癌、小数個転
移（オリゴ転移：リンパ節など）に対してピン
ポイントで高線量照射するサイバーナイフ1台、
子宮癌や前立腺癌などに対する小線源治療を行
う3次元画像誘導小線源治療、そしてMRIリニア
ックが1台となっています。MRIリニアック
（MRI-guided Radiation Therapy: MRgRT）は放
射線治療中にシネMRI画像を撮像して、呼吸や
消化管の蠕動による動きのある臓器の腫瘍にも、

（MRI画像を）見ながら、正確に放射線照射をす
ることで、抗腫瘍効果を増強し、放射線有害事
象を低減できる新規治療モダリティです。この
ような最先端の放射線治療機器を用いて、これ
まで治療が困難であった癌にも対峙できるよう
になると期待しています。また、これまでの旧
通院治療センター（外来化学療法室）は42床
にて、ベッド3回転で一日の治療を賄っていま
したので、どうしてもベッド待ちの時間が発生
し、患者さんには待ち時間の延長の一因になっ
ていました。新しい外来化学療法室では77床
となり、ゆったりとした空間でプライバシーに
配慮した構造になっています。さらにベッドサ
イドで看護師、薬剤師、栄養士など、多職種に
よる介入が可能となっています。4階病棟も最
新の装備が準備されています。例えば、4人床
ではファン装置、廊下足音軽減スピーカー、暖
色ライトが標準装備されており、患者さんにとっ
て心地よい睡眠が取れるように工夫されていま
す。また、今年の秋から、核医学治療のひとつ
であるルテチウム-177標識ソマトスタチンア
ナログ（Lu-177-DOTA-TATE）治療を導入予定
です。同治療は、希少がんではあるソマトスタ
チン受容体陽性神経内分泌腫瘍の治療法として
注目されています。放射線核種であるルテチウ
ム-177で標識されたソマトスタチンアナログ
を投与して、体内から腫瘍に対して放射線照射
を行う内用療法です。治療抵抗性神経内分泌腫
瘍に劇的な効果を発揮する治療です。当院では
安全に施行できるようにワーキンググループを
結成し準備を進めているところです。またゲノ
ム医学の発展から、遺伝子解析結果に基づく治
療法選択が行われるようになり、当院ではがん
ゲノム医療拠点病院として遺伝子診断から治療
へ繋げることができるよう診療体制を整備し

ています。この夏から新しく2つの検査法が追加となりましたので、これまでの検査法では検出が難しかった小児腫瘍や肉腫のような癌にも何らかの治療を推奨できる機会が増えることを期待しています。外科治療では内視鏡手術支援ロボットであるダビンチ・システムが導入されました。従来の胸視下鏡手術では対応が困難であった手術にも対応できるようになります。

このように最新の医療機器を揃えてがん治療に質の向上に繋がるように整備が進んでいますが、並行して支持・緩和治療にも力を入れています。当院は、今年度から厚生労働省のアピアランス支援モデル事業を実施する10施設に指定されました。アピアランスケアとは、がん治

療による外見の変化に対し医療者が行うケアを指します。主にがん薬物療法の副作用である脱毛や皮膚障害などに対応をすることになります。また小児・AYA (Adolescent & Young Adult (思春期・若年成人)) 世代や高齢者に対する支援チームも地道に活動しており、これら多職種チームによりがん患者さんが社会生活を送りながら治療に取り組むことができるよう、安心して暮らせる環境を整えることを目指して支援する体制を整えて行きたいと考えています。

今後も皆様のご期待に添えるようスタッフ一同さらに精進して参りますので、ご指導ご支援をよろしくお願いいたします。

埼玉医科大学国際医療センター地域医療連携懇話会が開催されました

第90回・91回・92回地域医療連携懇話会をWEBにて開催いたしました。

第90回は当院心臓血管外科の中嶋先生から『急性大動脈解離と診断されたら』というテーマのご講演と、吉武先生から『大動脈緊急症治療ネットワークについて』のご講演をいただきました。



【第90回】左から 吉武先生、鈴木心臓病センター長、佐伯病院長、中嶋先生、眞下連携室長

第91回はわかさクリニック福元先生から『当院の在宅医療におけるがん患者さんの現状について』のご講演と、当院腫瘍内科・消化器腫瘍科濱口先生から『当院における消化器がん患者さんの地域医療連携について』のご講演をいただきました。

第92回は当院放射線腫瘍科の加藤先生から『当院の高精度放射線治療とMR リニアックの紹介』のご講演と、野田先生から『MRIdianの初期経験』のご講演、熊崎先生から『MR リニアックでの即時適応放射線治療の物理 / 技術的側面』のご講演をいただきました。

お忙しい中ご視聴いただいた皆様、またコメントを頂きました医療機関の皆様、ありがとうございました。本会は双方向に意見交換できる場を目指しております。今後は、ハイブリットでの開催を検討しています。次回開催につきましては、順次ご案内いたします。



【第91回】左から 濱口先生、佐伯病院長、眞下連携室長



【第92回】左から 濱口がんセンター長、野田先生、佐伯病院長、加藤先生、熊崎先生、眞下連携室長

新任診療部長・教授のご紹介

新任診療部長のご挨拶



に た ん だ ひろゆき
二反田 博之

診療科：呼吸器外科 准教授

専門分野：肺癌の手術、胸腔鏡手術、気道ステント治療、肺門型早期肺癌に対する PDT（光線力学的治療法）

2022 年 10 月 1 日付で国際医療センター呼吸器外科診療部長を拝命いたしました。私は 2007 年 4 月の当センター開院時から呼吸器領域の手術および気管支鏡治療に従事しております。

当科は開院以来、多くの患者さんをご紹介いただき手術件数を伸ばして参りました。昨年はおよそ 350 件の手術を行い、肺癌と転移性肺腫瘍で 200 件以上を占めております。悪性腫瘍のみならず気胸や膿胸についても患者さんの状態に合わせた治療を行い、ご満足いただいております。今後も呼吸器内科と協力して地域の胸部疾患に対応して参りますので、ご支援のほど宜しくお願いいたします。

新任診療部長のご挨拶



あらい たかひで
荒井 隆秀

診療科：心臓内科 教授

専門分野：循環器学一般、虚血性心疾患、カテーテルインターベンション

令和 4 年 4 月 1 日付で埼玉医科大学国際医療センター心臓内科教授、令和 5 年 1 月より心臓内科診療部長を拝命致しました。平成 14 年に慶應義塾大学医学部を卒業し、循環器内科医として研鑽を積んで参りました。主に虚血性心疾患並びに心臓弁膜症などの構造的な心疾患に対するカテーテル治療に従事してきました。

構造的な心疾患のカテーテル治療は大動脈弁狭窄症に対する経カテーテル的大動脈弁留置術、僧帽弁閉鎖不全症に対する経皮的僧帽弁修復術など近年急速に進歩している分野となります。このような患者様がいらっしゃいましたら、お気軽にお問い合わせ頂ければ幸いです。

今後ともご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い致します。

新任診療部長のご挨拶



す だ さとし
須田 智

診療科：脳卒中内科 教授

専門分野：脳卒中、臨床神経学、認知症

2023 年 4 月 1 日付で脳卒中内科診療部長を拝命致しました須田智です。当科は、脳卒中、意識障害、けいれんなどの神経救急疾患を中心に診療を行っております。脳卒中（片麻痺、しびれ、構音障害、めまい、複視、視野障害、失語など）の疑いがありましたら、すぐにご紹介を頂ければと思います。脳卒中外科、脳血管内治療科と協力し、診断、治療に最善を尽くします。

また、今後は認知症診療にも力を入れていきたいと思っておりますので、物忘れの患者さんがいらっしゃいましたら、ご紹介を頂けますと幸いです。地域の先生方のお役に立てるように精進致します。よろしくお願い申し上げます。

新任教授のご挨拶



いしだ ひろのり
石田 博徳

診療科：呼吸器外科 教授
専門分野：肺癌・縦隔腫瘍の手術、胸腔鏡手術、気胸・炎症性肺疾患の外科治療、ロボット支援下手術

令和4年11月1日付けで呼吸器外科教授を拝命しました。私は、平成19年の当センター開院時から包括がんセンター・呼吸器外科で診療、研究、教育に従事して参りました。

当科では、原発性肺癌、転移性肺腫瘍、縦隔腫瘍、胸膜中皮腫などの胸部悪性疾患の診断と外科治療だけではなく、気胸・嚢胞性疾患、炎症性肺疾患、膿胸など良性疾患に対してもドレナージ術から手術まで幅広く対応しております。8割以上は内視鏡（胸腔鏡）手術です。昨年末から肺がんに対するロボット支援下手術を導入し、さらに低侵襲手術に取り組んでいます。専門性の追求と地域に根差した医療を目指します。診断や保存的治療も含めて、お気軽にご相談ください。

新任教授のご挨拶



まつうら かずお
松浦 一生

診療科：乳腺腫瘍科 教授
専門分野：乳腺外科、乳癌薬物療法、乳癌診断、遺伝性腫瘍

2023年4月1日付けで埼玉医科大学国際医療センター乳腺腫瘍科教授を拝命いたしました。2007年の埼玉医科大学国際医療センター開院時に乳腺腫瘍科へ赴任後、一時留学等により埼玉を離れましたが、2019年に帰任しました。乳腺専門領域では新規薬物療法・内視鏡補助下手術の導入、臨床遺伝専門医として遺伝性腫瘍外来およびがんゲノム医療の充実に努めています。

当科は全国でも屈指の乳癌ハイボリュームセンターになりましたが、これは長年にわたる強固な地域連携と多くのご支援をいただいた結果と考えています。先生方には、心より感謝を申し上げますとともに、今後とも引き続きご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

新任教授のご挨拶



かとう ゆうじ
加藤 裕司

診療科：脳卒中内科 教授
専門分野：脳卒中、臨床神経学、頭痛

令和5年4月1日付で国際医療センター脳神経内科・脳卒中内科教授を拝命いたしました。当院には、平成19年の開院時より診療に従事しております。

当院は開院以来、年間約500例の虚血性脳卒中患者を受け入れる国内屈指の脳卒中センターで、24時間365日、あらゆるタイプの脳卒中に対する診療体制を整えています。突然発症の麻痺や言語障害を呈した患者様がおりましたら、すぐに救急車で搬送してください。急を要しない場合はお気軽に外来へご紹介下さい。

「不幸にして、脳卒中になってしまっても国際医療センターにかかれば何とかかなる」と地域の先生方・患者様から信頼される病院となるように日々研鑽に努めてまいります。何卒ご高配の程、よろしくお願い申し上げます。

新任教授のご挨拶



いのうえ よしたか
井上 孝隆

診療科：救命救急科 教授
専門分野：救急・集中治療、外科、外傷外科、熱傷、特殊災害

この度、令和5年4月1日付で埼玉医科大学国際医療センター救急医学科に赴任いたしました。4月1日付で教授を拝命しております。

当院の救命救急センターは、国際的にも通用する最高水準の救急医療を提供するセンターであり、厚生労働省の救命救急センター評価では常に国内トップのランクに位置づけられています。

当科では、急性腹症や重症感染症、重症外傷や広範囲熱傷など、集中治療を必要とするあらゆる重症患者さんを診療させていただいております。地域の砦として、さらには国際的にも貢献できるような救命救急センターでありたいと考えております。今後ともご指導のほど、何卒よろしくお願いいたします。

新任教授のご挨拶



たなか なおふみ
田中 尚文

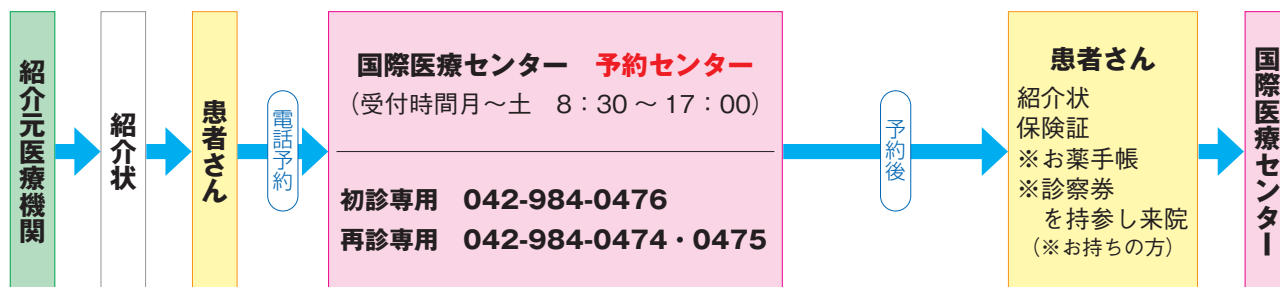
診療科：リハビリテーション科 教授
専門分野：リハビリテーション診療（全般）、認知症診療、筋電図検査

令和5年4月1日付けで埼玉医科大学国際医療センターリハビリテーション科教授を拝命し、赴任しました。私は初期研修より脳疾患、運動器疾患、脊髄疾患、神経筋疾患、切断、小児疾患、リウマチ性疾患、内部疾患、がんなどリハビリテーション治療が必要とされるあらゆる領域の診療に従事してきました。また、日本老年精神医学会と日本認知症学会の専門医・指導医として認知症診療も行ってきました。

リハビリテーション診療における地域連携をより緊密にさせていただきたいと考えておりますので、今後ともご指導の程よろしくお願いいたします。

当院は予約制です 下記の方法でご予約ください

① 患者さんからの電話予約

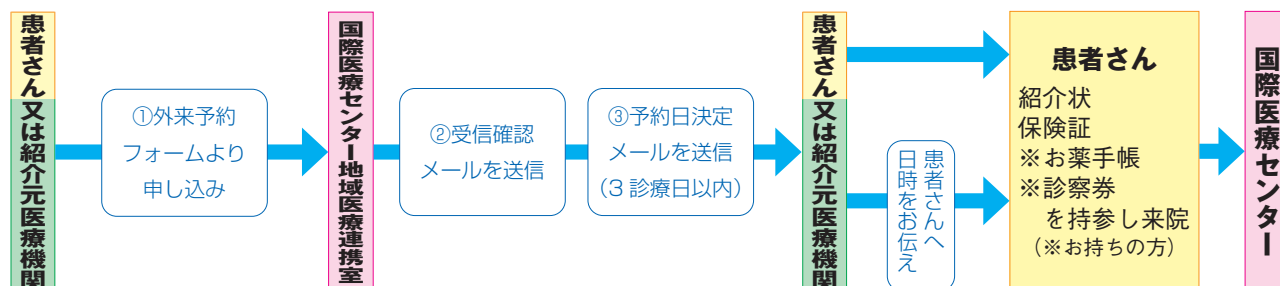


② 医療機関からの電話予約



③ インターネットからの予約 (初診専用)

紹介状は患者さんへお渡しください。



Organization Accredited
by Joint Commission International



インターネット
予約入力フォームは
こちらから



埼玉医科大学国際医療センター 地域医療連携 News (第27号)

編集・発行：埼玉医科大学国際医療センター

地域医療連携室

編集責任者：眞下 由美

発行責任者：佐伯 俊昭

住 所：〒350-1298 埼玉県日高市山根 1397-1

TEL：042-984-4433

FAX：042-984-4740

発行日：2023年9月1日

URL：https://www.international.saitama-med.ac.jp